

「カーボン・ニュートラル」に向けての貢献

世界が目指す持続可能なより良い社会を実現するために、SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) 達成に向けて日本が世界に対して果たす役割が求められており、温室効果ガス排出を実質ゼロとする「カーボン・ニュートラル」への挑戦などグリーン産業も育て、経済と環境の好循環を作り出す科学技術の創製が重要な課題となっています。この観点から、国公私立大学、文部科学省、経済産業省、環境省などが、カーボン・ニュートラル達成に向けた取組を大学から大学、地域、国、世界へと展開させることを目的として、2021年3月に、「カーボン・ニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」が設立されました。

この連合では、2050年までにカーボン・ニュートラルを達成するための大学の役割として、国や地域の変革のための新たな知識の創出、リーダーシップのある大学院生の育成、キャンパスを含む様々な地域での炭素排出の削減、国際協力が挙げられており、「ゼロカーボン・キャンパス WG」「地域ゼロカーボン WG」「イノベーション WG」「人材育成 WG」「国際連携・協力 WG」の5つのワーキンググループがこの課題に取り組むことになっています。このうち、大阪市立大学は、本学重点課題に関連する「イノベーション WG」に参画しています。

大阪市立大学は、国際的な環境問題の解決および、新エネルギーの創出に係る研究を、重点研究課題の一つとして挙げており、これまでに太陽光エネルギーから燃料を作り出すための人工光合成研究に関しては、国内外においてトップレベルの研究成果をあげてきました。中でも、2013年に本学に設立された「人工光合成研

究センター」は2016年度からは文部科学省認定の共同利用・共同研究拠点「人工光合成研究拠点」として事業を進めており、これまで蓄積してきた本学の光合成・人工光合成研究成果を基盤とし、国内外の大学との共同利用・共同研究を強力に推進してきました。

今後は、カーボン・ニュートラル達成に向けての革新的な人工光合成研究や技術開発を継続すると共に、センターが有する技術シーズを、産学官民連携を通じて社会実装へと展開していくことが益々重要になると感じています。人工光合成や周辺技術に関する産学連携研究の加速や、研究成果を実証研究や社会実装につなげる橋渡しの円滑化を図りながら、人材の育成や国際化も重視した総合的な取り組みを続けていきます。



(今月の担当は吉田朋子副センター所長でした)

人工光合成研究拠点
ニュースレター
第6巻・第5号
2021年8月11日発行
発行責任者: 天尾豊
(人工光合成研究センター所長)
編集責任者: 吉田朋子 (同副所長)
拠点HPは [こちら](#)

